



埋文だより

第58号

平成24年6月15日発行



黒曜石出土状況

けもの 獣を追いかけていた きゅう せつ き じ だい 旧石器時代

堀之内遺跡(薩摩川内市)では、約2万年～1万5千年前の旧石器時代の落とし穴が、1基見つかりました。直径1.5m程の円形をしており、深さは1.5mです。

周囲には現地から約15km離れたところで産出する黒曜石の破片がたくさん散らばっており、石器を製作した場所だと考えられます。また、旧石器時代の貴重な石器(槍やナイフ等)も複数見つかりました。

獣を追いかけてたり、わなをかけていた旧石器時代の人々の姿が目に見えかねてくるような遺跡です。

目次

- ・ 獣を追いかけていた旧石器時代 1
- ・ 平成23年度かごしまの遺跡情報 2, 3
- ・ 本物に学ぼう まいぶんキット貸出事業 ほか... 4
- ・ 国重要文化財に答申前原遺跡出土品 ほか..... 5
- ・ 平成24年度発掘調査予定の遺跡 6

平成23年度 かごしまの遺跡情報

縄文時代からの人びとの暮らし

～田原迫ノ上遺跡（鹿屋市）～

田原迫ノ上遺跡は、平成22年度の調査で、弥生時代中期（約2,000年前）の堅穴住居跡や掘立柱建物跡が見つかり、弥生時代中期の集落跡と考えられていました。



連穴土坑

平成23年度は新たに縄文時代早期（約8,000年～9,000年前）の堅穴住居跡や燻製

を作ったと考えられる連穴土坑、集石遺構、さらに落とし穴など多くの生活の跡が見つかりました。弥生時代だけではなく、縄文時代の人々の生活の場でもあったことがわかってきました。



堅穴住居跡

土器の粘土はどこから

～稲荷迫遺跡（志布志市）～

10,000年前の縄文時代早期前半から1,500年前の古墳時代まで、多くの土器が出土しました。これらの土器が遺跡の近くでつくられたとすれば、同じような粘土が使われるはずですが、しかし、遺跡周辺では手に入りにくい粘土でつくられた土器もみられます。それぞれの土器がどこで作られたのか調べていくことで当時の交流の様子を知ることができます。



古墳時代の土器

墓へつながる階段か？

～立小野堀遺跡（鹿屋市）～

古墳時代の南九州地域独自の墓である地下式横穴墓が多数発見されています。その数は平成24年3月には123基見つかり、かなり大規模な墓地であることがわかってきました。

墓のほとんどは垂直に堅穴を掘り、墓につながるタイプなのですが、堅穴につながる階段状のものが1基見つかりました。これが何のためにつくられたのか、同時代のものなのかどうかなど、他の遺跡の墓地などとも比較しながら調査を継続しています。



階段状のものが見つかった墓

平安時代に採られた貝殻

～山口遺跡（薩摩川内市）～

山口遺跡では、平安時代の柱穴の中から、貝殻がまとまって発見されました。これまで確認された貝殻は、巻貝（カワニナ）が約180個体、2枚貝（マツカサガイと考えられる）が約120個体あり、いずれも淡水にすむ種類です。

特に、マツカサガイについては、環境省・鹿児島県の準絶滅危惧種に指定されており、現在の鹿児島県内ではほとんど確認できない珍しいものであることがわかりました。平安時代の豊かな自然をうかがい知ることのできる貴重な発見です。



カワニナとマツカサガイ

旧石器時代の石器製作現場

～天神段遺跡（大崎町）～

旧石器時代（約18,000年前）の石器を製作した跡が見つかりました。ここからは、狩りの道具（細石刃・三稜尖頭器）や石器を作る際に使ったたたき石、約9,000点の石クズなどが出土しました。特に遺跡内で最も標高が高い地点から多くの石器が出土していることから、旧石器時代の人びとが見晴らしの良い場所



石器出土状況

500人参加の現地説明会

～高吉B遺跡（志布志市）～

2月11日（土）に現地説明会を行いました。弥生時代中期（約2,000年前）の堅穴住居跡や掘立柱建物跡の他、当時の生活をイメージしてもらおうと、復元住居も見せていただきました。また、高吉B遺跡や周辺の遺跡から発見された土器や石器なども展示しました。当日は晴天のもと、500人を超える見学者があり、埋蔵文化財を広く知っていただくことができました。



復元住居



掘立柱建物跡

研究紀要「縄文の森から」第5号刊行

当センターでは、調査研究成果のひとつとして研究紀要を発行しています。今まで蓄積してきたデータをもとに、わかってきたこと、遺構や遺物からの一考察、実験の成果、集成や埋蔵文化財を活用した授業などいろいろな視点から研究に取り組んでいます。

今回は「縄文の森から」（第5号）を刊行するとともに、多くの方に見ていただくために埋蔵文化財センターのホームページ（6頁参照）上でも公開しています。ぜひ、一度ご覧ください。



2012年3月 発行

本物に学ぼう！～きてみてさわって埋文センター～



「まいぶんキット貸出事業」

普段の授業や郷土教育への取組を支援するため、教室の中で本物の土器や石器などにふれることができる、実物資料の貸出事業を実施しています。本物から得られる驚きや感動を学びの場に生かして、授業や総合的な活動をより豊かにする一助としてご活用ください。平成23年度は、11校（634人）の利用がありました。



土器をさわって観察しよう

◎対象：希望する学校

◎貸出教材：土器（縄文時代、弥生時代）、石器（石斧、石鏃）
「『縄文』を描いてみよう」「薩摩焼の歴史」など

歴史を実感する研修や職場体験

先生方だけでなく、中学生や高校生、大学生まで研修や職場体験学習を通して歴史を学ぶことができます。教室から離れ、先人の知恵にふれたり、実際の仕事として報告書作成の一場面に立ち会うことができます。



土器の接合作業

◎対象：県内の教職員〔パワーアップ研修7月26日（木）～27日（金）、8月2日（木）～3日（金）フレッシュ研修8月23日（木）～24日（金）〕、職場体験学習、インターンシップ
県内市町村埋蔵文化財担当職員ほか（専門職員養成講座初級、中級、上級）

かごしま県民大学連携講座「鹿児島島の遺跡に学ぶ」

私たち鹿児島の大昔の人々は、どんなくらしをしていたのでしょうか。これまでの調査をもとに、鹿児島県の先人たちの生活を分かりやすく紹介します。あなたも受講してみませんか。

◎第1回 おまかせ！夏休み自由研究「かごしまの大むかし」

7月7日（土） 13：30～15：00

本物の土器や石器にふれながら昔の人々の生活を紹介します。
また、夏休みの自由研究のテーマやアイデアもいっぱいです。

対象：小学生（4年生以上）・中学生 50名（保護者同伴可）

講師：國師洋之、玉利浩実（県立埋蔵文化財センター文化財主事）

◎第2回 「自然と共に生きた南九州の人びと

～鹿児島県の縄文文化をつくった植生～

10月20日（土） 13：30～15：00 対象：一般 50名

講師：寺田仁志（県立埋蔵文化財センター所長）

◎第3回 「縄文時代の生活」

2月23日（土） 13：30～15：00 対象：一般 50名

講師：新東晃一（南九州考古学研究所長）

会場：かごしま県民交流センター 申込み先：鹿児島県上野原縄文の森 電話 0995-48-5701



「かごしまの大むかし」講座

歴史を多くの視点から「考古学講座」

縄文時代や上野原遺跡に関する考古学講座を上野原縄文の森で、年5回開催しています。今年度は時代の範囲を広げ、南九州の歴史について多くの視点から歴史を捉えて実施しています。

先月第1回「時代概説～旧石器時代から古墳時代まで～」というテーマで、当センターの東和幸（調査第一課第一調査係長）が他の地域と比較した南九州の歴史について解説をし、多数の参加者から好評を得ました。今後の予定 第2回 7月14日（土）講師：寺田仁志（県立埋蔵文化財センター所長）

題目：「縄文の植と食」 13:30～15:00

第3回 9月1日（土）講師：小林達雄（國學院大學名誉教授）上野原縄文の森開園10周年記念シンポジウム13:00～、第4回 11月（発掘現場見学の日程未定）

第5回 2月2日（土）講師：中村明蔵（元鹿児島国際大学教授） 13:30～15:00



第1回考古学講座

第34回企画展「かごしまの遺跡2012」

～県立埋蔵文化財センター発掘速報展～

期間：6月23日（土）～9月17日（月） 場所：上野原縄文の森展示館
平成23年度に発掘調査した遺跡、報告書を刊行した遺跡の中から選りすぐりの出土品を紹介します。

紹介する遺跡

（鹿児島市）川上城跡、鹿児島紡績所跡他（南九州市）宮ノ上遺跡、鳴野原遺跡B地点
（薩摩川内市）上新田遺跡、山仁田遺跡、山口遺跡、堀之内遺跡
（南さつま市）芝原遺跡（出水市）外島遺跡（霧島市）北麓原D遺跡
（鹿屋市）立小野堀遺跡、田原迫ノ上遺跡（大崎町）天神段遺跡、野方前段遺跡B地点
（志布志市）稻荷迫遺跡、高吉B遺跡（曾於市）宮ヶ原遺跡

企画展講演会

期日 6月30日（土）、8月11日（土） 13:30～15:00

場所 縄文の森展示館1階多目的ルーム

講師 県立埋蔵文化財センター専門職員

6/30 井口俊二、今村結記 8/11 長崎慎太郎、楸田岳志

発掘調査の成果を、調査担当者が写真などを使って解説します。

国重要文化財に答申 前原遺跡出土品

前原遺跡は、鹿児島市福山町（旧松元町）にあり、旧石器時代から中世にかけての遺跡です。特に縄文時代早期の集落跡は、住居跡・道跡・連穴土坑などがあり、約9,500年前の活動の様子をよく伝えています。

4月20日、国の文化審議会が文部科学大臣に重要文化財に指定するよう答申したのは、これら縄文時代早期の集落跡から出土した多量の土器、土製品、石器の一括資料です。

土器は、薄いつくりで、貝殻による繊細な文様が描かれています。

また、上から見た形が円形のほかに四角やレモン形の土器もあり、外の地域では見ることができない特徴です。

多彩な石材でつくられた石鏃や石鏃形の磨石なども含め、学術的に価値の高い266点が対象になります。



代表的な出土遺物

発行日 平成24年6月15日
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森2番1号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
URL: <http://www.jomon-no-mori.jp>
E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp